



会員登録へのお願い

謹啓

残暑の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

先日、会員の皆様に平成 18 年度の啓発事業収支決算と事業概要を報告し、会員の継続と推薦をお願いしましたところ、県医師会のご好意により、医師会長横倉義武先生のお名前で、各地区医師会へ対がん協会への会員登録をお願いする書状を送付していただきました。ご支援に対し心から感謝を申し上げます。

さて、福岡県対がん協会は、日本対がん協会の福岡県支部として昭和 34 年に発足し、「がん征圧」に向け、がん検診とがん知識の普及啓発に取り組んでまいりました。これまでに 500 万件を超えるがん検診数を行い、多くの早期がんを発見し治療成績の向上に貢献してまいりました。一方、啓発活動におきましては、日本対がん協会の福岡県支部として定期的に講演会や講習会を開催するとともに、啓発活動やイベントにも積極的に参加し、がん征圧に向け活動を展開してきました。最近では、2 年前に発足しました当協会に事務局を置く「ストップ・がん・ボランティア」の会におけるがん検診受診率アップの活動を支援しております。また、当協会は、長年にわたり福岡県在住の若手がん研究者の研究を助成してまいりました。助成を受けた研究者は 450 名を超え、助成金の総額は 1 億 5 千万円になり、受賞者の中からわが国を代表する多くの研究者が出ております。これらの事業のための資金の多くは、皆様からの会費やご寄付などに依存しております。しかし、昨今、世の中の不景気を反映して、平成 18 年どの会員数が 5 年前の半分 500 名に減り、また寄付金も著しく減少し、総額は 5 年前の 3 分の 1 300 万円程度となり、啓発活動や研究助成事業を縮小せざるを得ない状況となっております。

私どもも、行政、企業への寄付のお願い、研究助成などの申請をして資金集めに努力してまいりますが、皆様におかれましては、出費多端のおり誠に恐縮に存じますが、維持会員として協会の啓発事業にご支援くださいますようお願いいたします。

なお、会員に登録していただきました方には、協会主催の講演会、イベントへのご招待、広報誌（青い鳥）の送付、最新のがん情報の提供、総合健診センター受診の便宜などをお図りしております。

まだまだ暑い日が続きますが、皆様のもすますのご健勝をお祈りいたします。

謹白

(財) 福岡県対がん協会
会長 原 信



会費納入のお願い

会費は下記のようになっています。

何口でも結構でございます。

通常会員会費（個人） 一口 2,000円

特別会員会費（個人） 一口 10,000円

法人会員会費（法人） 一口 10,000円

出費ご多端の折り、誠に恐縮に存じますが、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

なお、同封の払込取扱票（郵便局のみ利用可）をご利用になると、払込手数料はかかりません。

ご質問、ご疑問等がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

財団法人福岡県対がん協会

総務課 橋本 哲治

〒810-0001

福岡市中央区天神 4-1-32

電話 092-722-2511

FAX 092-722-2563

平成18年度普及啓発事業報告

財団法人 福岡県対がん協会

【募金活動】

平成 18 年度は福岡県内の公共機関、製薬会社、生命保険会社などに維持会員加入の依頼をしたところ、37 件（12 件の一般会員、11 件の特別会員、14 件の法人会員）の新規加入があった。また、寄付金も小口寄付がほとんどで、多額の寄付は望めなかったが、今年度は金融機関のチャリティ行事による寄付を戴いた。

(1) 会費収入

個人会員

一般会員（一口 2,000 円以上/年額）	853,000 円
-----------------------	-----------

特別会員（一口 10,000 円以上/年額）	440,000 円
------------------------	-----------

法人会員（一口 10,000 円以上/年額）	440,000 円
------------------------	-----------

合 計	1,733,000 円
-----	-------------

(2) 寄付金

	1,194,609 円
--	-------------

【知識の普及啓発】

1. がん征王月間中の活動

(1) 平成 18 年度がん征王の集い

がん征王の集いは「がん向き合う 新たな挑戦」のテーマで、平成 18 年 9 月 9 日(土)、福岡市博多区千代のパビヨン 24 ガスホールで開催した。

2. 年間を通しての活動

(1) マスコミ関係

朝日新聞、毎日新聞では年間を通して、検診日程を掲載。9 月の「がん征王月間」にさきがけ、8 月下旬に朝日新聞でキャンペーン広告を行った。また、読売新聞の「医療ルネッサンス」の企画に全面的に協力し、講演講師の派遣、会場でのパネル展示、クイズラリーの支援等を行った。

福岡市提供の広報テレビ番組「どんな街！ふくおか」（FBS・平成 18 年 9 月 1 日放送）では「乳がん検診は怖くない 日本人女性の 25～30 人に一人が罹患するといわれる乳がんの検診方法とは？」、「とっても健康ランド」（KBC・平成 18 年 10 月 14 日放送）の「糖尿病予備軍を探せ！」では総合健診センターが紹介され、協会医師、スタッフが番組制作に協力した。平成 19 年 3 月 17 日放送の「土曜ニュースファイル『キューブ』」（TNC）では「禁煙・分煙」についての撮影・取材が行われた。

介護を中心としたシニア向けフリーペーパー「手をつないで Vol.48,2007.3」（㈱アイリック発行）には「早期発見でがん予防！」という標題で福岡県対がん協会及び総合健診センターの案内が掲載された。

(2) 協会機関誌、各種印刷物の配付

①平成 18 年度は「青い鳥 73 号」「青い鳥 74 号」を各 1,500 部発行。

②ポスターは 1,600 枚を福岡県内の市町村、医師会、保健所等に配付。

③日本対がん協会報（月刊）100 部贈付。

【相談および指導】

1. がん相談

がん告知、末期がん患者家族の悩み、免疫療法、抗がん剤等治療方法についてや医師との関係等の相談があった。電話による相談は合計 150 件、主な内容はがん検診受診についてが 35 件、自己検診法が 15 件、治療についてが 55 件、手術後についてが 15 件、診断についてが 20 件、その他が 10 件となっている。相談者は本人、家族と市町村・事業所等の保健師、保健担当者だった。

2. 健康教育

団体側からの要望により、福岡県内の事業所において、「ストップ・ざ・がん（乳がんの自己検診講座）」と題して開催した。11 会場、240 人が受講された。講話内容は従来の「乳がん」から「がん全般」についてと今回から広がり、男性が 38 名受講した。ふれあい介護事業推進協議会主催による「女性のための健康生活設計セミナー」に総合健康推進財団の要請により、「健診データの見方」、「乳がんの自己検診法」の講座を担当した。セミナーの受講者は 30 名だった。

3. 結果説明会等の保健指導

健診後の結果説明会は 5 団体から要望があり、医師 26 人、保健師 124 人、栄養士 47 人の総計 197 人が従事した。個人的にデータの説明や生活習慣についての保健指導を行った。

【学術研究助成】

1. がん研究助成金

平成 18 年度の福岡県対がん協会がん研究助成金は平成 18 年 7 月 1 日から平成 18 年 7 月 31 日までに募集、応募件数 42 件を平成 18 年 11 月 6 日福岡県対がん協会会議室にて合同審査会を開催した。5 件 6 人に対し、総額 150 万円を贈呈することとなった。

2. 地方研究助成金

日本対がん協会の地方研究研修助成金を原資として平成 18 年度は 6 人 6 件に 69 万 3 千円、「ストップ・ざ・がんボランティアの会」の 1 法人に活動支援として 50 千円の研究研修の助成を行った。

平成 18 年度がん研究助成金受賞者

(敬称略)

氏 名	所 属	研究課題
加留部謙之輔	久留米大学医学部病理学 特別研究員	ホジキンリンパ腫の各病型における臨床病理学的特徴および遺伝子プロファイル
藤野 善久 松田 晋哉	産業医科大学公衆衛生学 講師 産業医科大学公衆衛生学 教授	大規模コホート研究による甲状腺がんの血清学的リスク要因の検討 (特に自己免疫性疾患、感染症および輸血等による免疫寛容との関連の評価)
相島 慎一	浜の町病院病理 医長	肝内胆管癌におけるリシルオキターゼ (LOX) 発現の意義
田中 俊裕	福岡大学医学部生化学 助手	アデノベクターのファイバー改変による抗体特異的膀胱癌遺伝子治療法の開発
佐藤 典宏	九州大学大学院腫瘍制御学 助手	高感度 DNA メチル化マーカーを用いた膀胱癌早期診断法の確立
計 5 件 6 人		1, 5 0 0 千円

平成 18 年度地方研究助成金受賞者

(敬称略)

研究 (研修) 者名	所属機関	研究課題
加 来 恒 壽	九州大学	子宮頸部腺癌 特にその病変についての臨床細胞学的研究
宇都宮 尚	九州大学大学院	大腸がん集検の精度向上に関する研究
唐 宇 飛	久留米大学医学部	乳癌培養細胞株における放射線治療法と Bisphosphonate 製剤の併用効果に関する基礎的研究
林 龍之介	久留米大学医学部	Gn-Rhagonist 併用による CDOP の卵巣毒性軽減の基礎的研究
徳 永 えり子	九州大学大学院	乳腺腫瘍性病変の確定診断における針生検の意義
藪 内 英 剛	九州大学大学院	非浸潤性乳管癌の画像所見比較
ストップ・ぎ・がん ボランティアの会		ストップ・ぎ・がんボランティア活動支援
計 7 件		7 4 3 千円

【ボランティア活動】

「ストップ・ざ・がんボランティアの会」の平成18年度活動は福岡市内の公民館での講演会活動を中心に各人の地域を中心に積極的に活動した。講演会、ミニ講座を勧めるチラシ作りやポスター作りも行った。

また、他の患者会、ボランティア団体への協力、講演会等へのパネル展示参加を行った。地域支援活動としては、前原市東風小学校5年生の児童とボランティア活動について一緒に学習した。

平成18年度の講演会、ミニ講座は下記のとおり行った。

平成18年7月10日	第1回講演会	福岡市市民福祉プラザ	参加者 60名
	講演①「タバコと健康」	福岡県対がん協会会長	原 信之
	講演②「最近の胃がんの診断と治療」	福岡県対がん協会付設クリニック	院長 北川 晋二
平成18年9月20日	ミニ講座	福岡市西区姪浜公民館	参加者 40名
	ストップ・ざ・がんボランティアの会	田中 英敏	
平成18年9月26日	がん講座	福岡市西区西陵公民館	参加者 46名
	講演「最近の胃がんの診断と治療」	福岡県対がん協会付設クリニック	院長 北川 晋二
平成19年2月22日	がん講座	福岡市早良区高取公民館	参加者 33名
	講演「肺がんの診断と治療」	福岡県対がん協会会長	原 信之
平成19年3月10日	第2回講演会	福岡市市民福祉プラザ	参加者 80名
	講演①「どうする！メタボリックシンドローム」	福岡県対がん協会	総合健診センター長 隈本 健司
	講演②「最近の大腸がんの診断と治療」	福岡県対がん協会付設クリニック	院長 北川 晋二

【関係団体活動への協力】

1. ハッピーマンマ〜乳がんから女性を守る会〜（後援）

平成18年4月22日、福岡市内の舞鶴公園で第3回ハッピーマンマ〜乳がんから女性を守る会〜のピンクリボンウォークが行われ、当協会は後援を行った。

平成18年10月7日、福岡市中央区のエルガーラにて「女性がんフォーラム」が九州がんセンター、福岡県対がん協会、ハッピーマンマ等の主催で開催された。パネルトーク、クイズラリー等のイベントが行われた。

両日とも、マンモグラフィ検診車を出動させ、受診希望者には抽選によりマンモグラフィ検診を無料で実施した。

2. がんと心（共催）

平成18年12月9日、「心身の緩和を求めて」という副題で、九州がんセンター主催、福岡県対がん協会、日本対がん協会の共催で開催された。当協会のPRを「ストップ・ざ・がんボランティアの会」と協同して行った。

3. ウィズユー九州2006（後援）

平成19年1月28日、福岡市のアミカスで開かれた「ウィズユー～あなたとプレストケアを考える会～」が主催した講演会の後援を行った。

4. 第9回シティウォーク in ふくおか（後援）

平成19年3月11日、福岡ヤフードームにて、「～歩くことは健康づくりの出発点～」をテーマに「第9回シティウォーク in ふくおか」が開催され、マンモグラフィ検診車を展示した。

【教育・研修】

1. 福岡記念病院より研修医5名を受け入れ、「地域保健・医療」の「各種検診・健診」の研修を実施した。

1) 臨床研修医名簿

研修医名	研修期間
A	平成18年5月1日～平成18年5月15日
B	平成18年6月1日～平成18年6月30日
C	平成18年7月3日～平成18年7月31日
D	平成18年9月1日～平成18年9月15日
E	平成18年10月2日～平成18年10月13日

2) カリキュラム

日程	研修内容
1日目	オリエンテーション 会長 センター長 クリニック院長 事務局長 渉外企画課 保健看護科 放射線科 検査科 集団検診状況について 各科(課)担当者
2日目以降	(1日目、2日目で降共通) ◇胃読影 月曜日～金曜日(偶数日) 15h00m～19h00m 福岡県医師会館 ◇マンモグラフィ読影 金曜日 16h30m～ 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター ◇細胞診判定 火曜日 9h00m～10h00m 九州大学医学部保健学科 ◇胸部X線読影 ◇肺機能検査 ◇胃読影 ◇心電図、眼底検査判定 福岡県対がん協会 総合健診センター

【学会】

日本総合健診医学会第35回総会

平成19年1月26、27日 岡山市

【会議】

日本対がん協会ブロック代表者会議	平成18年5月30日	東京都
日本対がん協会支部事務局長会議	平成18年6月15日	東京都
UICC日本国内委員会平成18年度会議	平成18年7月29日	東京都
日本対がん協会支部長会議	平成18年9月14日	福島市
日本対がん協会平成18年度がん征王全国大会	平成18年9月14日	福島市
日本対がん協会ブロック代表者会議	平成18年12月6日	東京都
日本対がん協会九州・沖縄各県支部ブロック会議	平成19年1月18日	諫早市
福岡県たばこ健康対策推進会議	平成19年3月7日	福岡市

【業績】

1.原著

- 1) 齋藤貴生、徳永章二、北川晋二. 胃がん検診の事業精度評価Ⅰ. 精検受診率向上の重要性. 日本消化器がん検診学会誌、2006;44(3):259-269
- 2) 齋藤貴生、徳永章二、北川晋二. 胃がん検診の事業精度評価Ⅱ. 市町村が委託する検診機関の精度格差-日本消化器がん検診学会誌、2006;44(4):355-364

2.総説

- 1) 原信之、(財)福岡県対がん協会:過去、現在、未来、臨床と研究、2006;83(10):19-20
- 2) 原信之、住民に知らせたいがん情報、がん検診の立場から、きんせ医、2007;140:9-11
- 3) 北川晋二、前川隆文、山下裕一、古川尚志. この症例に学ぶ. 一前壁病変は腹臥位二重造影で-. 日本消化器がん検診学会誌、2007;45(1):40-48
- 4) 北川晋二、宮川国久、宇都宮尚、小川眞広、斉藤洋子、瀬川昂生、長田裕典、平田健一郎、藤井久男、松田徹. 委員会報告-平成16年度消化器がん検診全国集計-. 日本消化器がん検診学会誌、2007;45(1):49-68

3.学会発表

- 1) 古川敬一、北川晋二、増田信生、中村裕一. 「福岡市における胃がん個別検診の胃内視鏡検診の検査手順について」. 附置研究会1, 第45回日本消化器集団検診学会総会、名古屋市、2006.6.1-3
- 3) 野村涼子、池田晶子、樺島由美子、宮原典子、北川晋二. 「福岡県対がん協会の胃がん検診の実績」. 第36回日本消化器がん検診学会九州地方会、2006.7.29.大分市
- 3) 高宮紘士、中村裕一、増田信生、家守光雄、古賀安彦、藤見是、高山武彦、北野亀三郎、北川晋二、古川敬一、古川尚志. 「福岡市における大腸がん検診精検受診率の変遷と追跡調査」. 第36回日本消化器がん検診学会九州地方会、2006.7.29.大分市
- 4) 北川晋二. 報告「平成16年度消化器がん検診全国集計」. DDW札幌、第44回日本消化器がん検診学会大会、2006.10.13,14.札幌市

4. 司会・座長

- 1) 北川晋二、胃がん症例の呈示、福岡市医師会胃がん個別検診研修会、2006.5.29,30、福岡市
- 2) 樋渡信夫、北川晋二、パネルディスカッション「大腸がん検診における小ポリープの取扱い―対策型検診と任意型検診での対応―」；第45回日本消化器集団検診学会総会、名古屋市、2006.6.1-3
- 3) 原信之、特別講演；加藤弘文「肺癌のプロオテーム解析で何がわかったか」；第46回日本呼吸器学会、2006.6.3、東京都
- 4) 北川晋二、会長講演；森宣、「平成16年度の九州地区消化器がん検診の現状と今後の展望」第36回日本消化器がん検診学会九州地方会、2006.7.29、大分市
- 5) 原信之、パネルディスカッション「増加するがん―予防、診断、治療の現状―」；福岡県対がん協会がん征圧の集い、2006.9.9、福岡市
- 6) 原信之、教育セミナー「呼吸器疾患のガイドライン」；第58回日本結核病九州地方総会・第57回日本呼吸器学会九州地方総会、2006.11.18、福岡市
- 7) 北川晋二、ランチョンセミナー、岩下明徳「全身性疾患と消化管病変―病理学的側面から―」、第20回日本消化器内視鏡学会九州セミナー、2007.2.10,11、福岡市

5. 講演

- 1) 北川晋二、大腸癌のX線診断―症例呈示を中心に―、第9回つきじ放射線研究会、2006.4.15、東京都
- 2) 北川晋二、注腸X線検査の役割―症例呈示を中心に―、第106回佐賀腸疾患懇話会、2006.6.22、佐賀市
- 3) 原信之、タバコと健康、ストップ・ぎ・がんボランティアの会、2006.7.10、福岡市
- 4) 北川晋二、注腸X線検査の役割―症例呈示を中心に―、第109回3区合同消化器勉強会、2006.7.11、福岡市
- 5) 北川晋二、福岡市医師会胃癌個別内視鏡検診の現状と問題点、第129回胃腸疾患懇話会、2006.8.5、金沢市
- 6) 原信之、がんの～診断の最前線、増加する肺がん、どこまで治るか？～：検診の普及、診断技術の進歩、読売医療ルネッサンス、2006.8.26、福岡市
- 7) 原信之、ストレスと生活習慣病、福岡ライオンズクラブ例会、2006.10.18、福岡市
- 8) 原信之、増加する肺がん、どこまで治るか？～検診と予防が大切、アフラック講演会、2006.11.21、福岡市
- 9) 北川晋二、福岡市医師会胃がん個別検診の現状と問題点、第258回長崎胃疾患検討会、2006.12.13、長崎市
- 10) 原信之、最新の肺癌治療、粕屋地区保健師研究会、2007.2.1、篠栗町
- 11) 隈本健司、保健指導に役立つ心電図のみかた、豊前市・築上郡管内保健師研究会、2007.2.19、吉富町
- 12) 原信之、肺がんの診断と治療の現状、ストップ・ぎ・がんボランティアの会、2007.2.22、福岡市
- 13) 原信之、“肺がん”どこまで治るか―予防と早期発見の重要性―、アフラック講演会、2007.3.1、福岡市